

## 令和7年度 滋賀県原子力防災訓練の結果について

原子力発電所事故に対する実効性ある多重防護体制の構築を目指し、原子力災害を想定した防災訓練を実施したところ、その結果は以下のとおりでした。

### 1 目的

種々の災害対策プロセスに応じた各種訓練を通じて以下の取組を推進し、原子力災害対策の実効性を向上させる。

- (1) 県および防災関係機関における防災体制や協力体制の実効性の確認
- (2) 滋賀県原子力防災初動対応マニュアル等、各種マニュアルの検証
- (3) 原子力災害対策に係る要員の技能習熟
- (4) 原子力防災に関する住民理解の促進

### 2 訓練想定

若狭湾沖を震源とした地震による美浜発電所3号機の事故により、放射性物質が放出され長浜市の一部で避難等の措置を要する基準まで空間放射線量率が上昇。

### 3 訓練実施内容

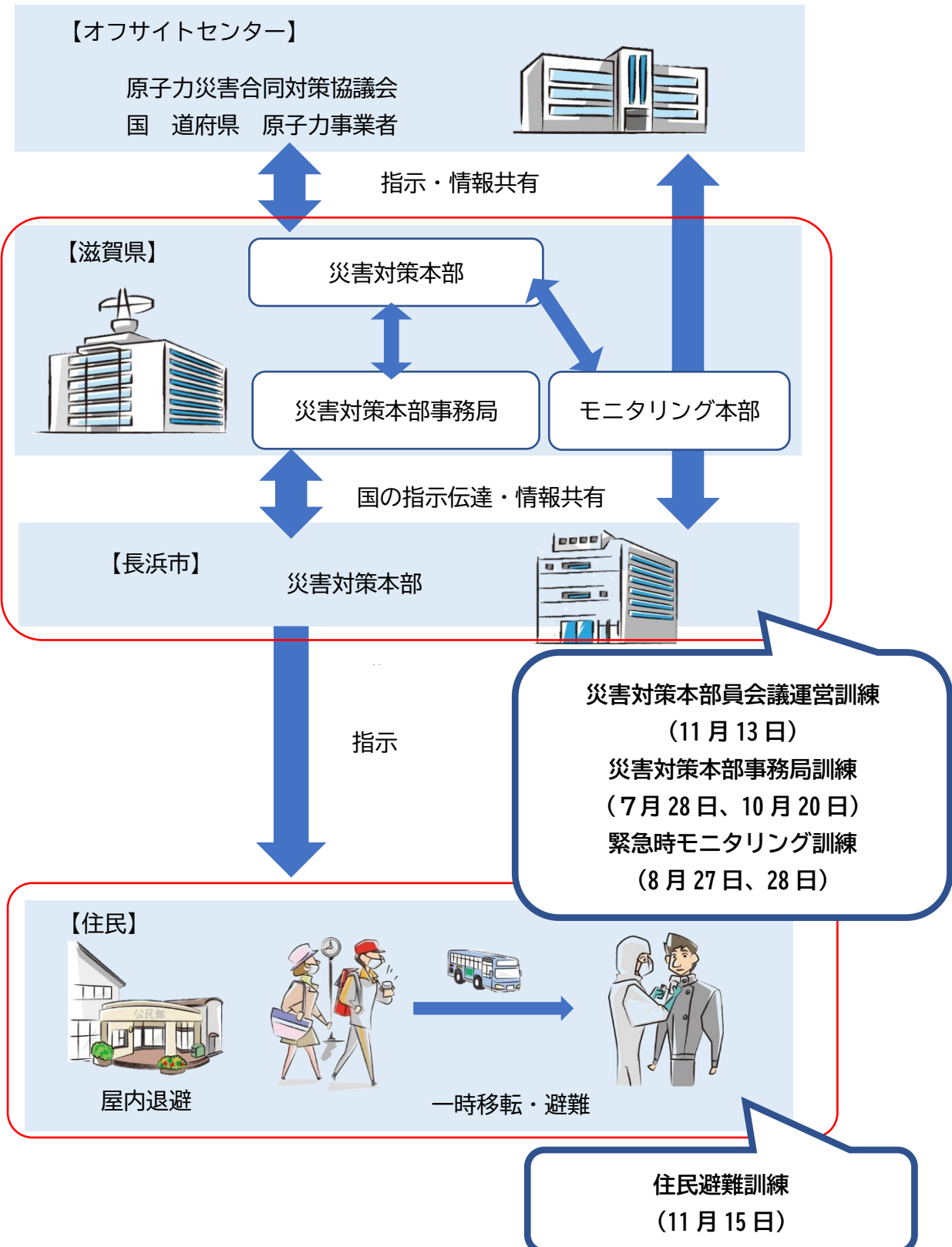
原子力災害対策に必要な各要素について、訓練日を分けて以下のとおり実施。

[参考図「各訓練の位置づけ」参照](#)

訓練名	日時	主な参加者	主な訓練内容
①滋賀県災害対策本部事務局運営訓練 【資料2-2参照】	7月28日(月) 10月20日(月)	災害対策本部事務局職員 JR西日本職員 2日間延べ 52人	・ 事故情報の収集 ・ 関係機関との連絡調整 ・ 災害対策本部本部員会議資料の調製
②緊急時モニタリング訓練 【資料2-3参照】	8月27日(水) 8月28日(木)	県、モニタリング関係機関  8機関 65人	・ 緊急時モニタリング本部運営 ・ 空間放射線量率測定 ・ 環境試料採取
②滋賀県災害対策本部本部員会議運営訓練 【資料2-4参照】	11月13日(木)	災害対策本部本部員ほか  7機関 54人	・ 本部員会議運営による状況報告
③住民避難訓練 【資料2-5参照】	11月15日(土)	住民、自衛隊等実働機関、医療機関ほか 36機関 330人	・ バス、船舶、ヘリを使用した住民避難 ・ 汚染検査 ・ 広域避難

## 【参考図】 各訓練の位置づけ

原子力災害発生から、住民避難までの流れを要素に分け訓練



● 対象地域



● 訓練イメージ

